

じゆくは、礼儀作法ぎぎやしつけのきびしいところでしたが、齒をくいしばって熱心に勉強しました。そのため、どんどん才能がのびて先生やじゆくじゆくの友だちから信らいされるようになりました。

民吉郎は、たくさんの知識と測量技術そくりよを身につけてふるさとに帰ってきました。家に帰ってからは、一生けん命農業にはげんでいましたが、若いのにたいへんしつかりしており、村の人たちからも信らいされていたので十八才で庄屋しやうや(村長)のかわりになりました。

明治八年(一八七五年)には、開成山かいせいざんで行われた農地開拓かいたくのための測量そくりよをし、当時、まんぞくな地図がなかった岩瀬郡の村々の測量をして、しつかりした図面も作りました。

明治十二年に塩田村戸長(いまの町村のしくみができるまえの町や村で、行政の仕事をする人)になり、二十二年に塩田村最初の村長になりました。

村長になってからは、村をゆたかにするため田畑を開拓し、農作物にかかすこ